

とうさんじ 東山寺

所在地：淡路市 長澤



本堂



山門



「東山寺寸景」南あわじ市 村上利明氏撮影
(第1回淡路島景観フォトコンテスト応募作品)

東山寺は、弘法大師が、弘仁10年(820)に、伊弉諾神宮の鎮護と庶民信仰の中心として開祖した由緒ある寺です。本堂及び山門は室町時代に、淡路守護職の細川頼春が寄進したもので、特に、山門は淡路島最古の木造建築物として当時の建築技術の高さを感じさせます。

また、幕末の頃、勤王の志士である梁川星巖、頼三樹三郎、伊藤聴秋などが、幕府の目を逃れ、東山寺で謀議をこらしたことがあり、志士の詩や、憤怒のあまり振った刀尖の痕が今に残っています。

境内には、サクラやフジ、モミジなど、四季折々の花が参拝に訪れる人たちを暖かく迎えてくれます。春の到来を告げるサクラや、それに続いて咲くフジも見ごたえがありますが、圧巻は秋の紅葉。境内に向かう参道は真っ赤に色づいたモミジに包まれ、山あいの古刹に荘厳な雰囲気醸し出します。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - ✓ 歴史が作り出す景観
 - 生活・文化が作り出す景観
 - 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道津名一宮ICから、県道66号から国道28号へ、県道123号を北上。車で30分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図